

に取上出羽守殿と書後遠國より返く上りたるを
九郎左衛門に相領物給たりと其面目有て山形へ歸り
義光之右と趣申上るるに義光斜あられ悦び何卒
白鳥平邸を討んと思召家臣尾張守を召され内談
有て尾張守にと計ひと作せられ其尾張守其
状を認め長高に銘をいし使者急き谷地の城より
しそ旨趣をやりし彼の状を差出さる長高披見して
思召根今義光の武威の畏れを少し始終彼に敵對
の中く叶ふまじ此度尾張守の状を幸ひし和睦を
結むまじといひて加勢を請ひうけ近隣を打隨ひ勢を強

大に成り如何なる事をもあして義光を亡さんと思ひ和睦
可成り返狀認め使者に對面して返狀を渡しし使者
若き歸りて返狀をよめ尾張守披見して義光公へ
差上る義光此状して喧嘩の氣色よたれ其後吉
日を擇び長高の息女と迎ひ取誠は千秋万歳を
祝しし事是より互に使者を以て申渡しの有といふも
長高公此解さるるに山形へも余府ある事も
去るに依て義光公尾張守に内談有て其後病氣
と果して外へ出玉らん醫者を加へ保養有かも
更し甲斐なく治すに弱り寂早今生に存命を